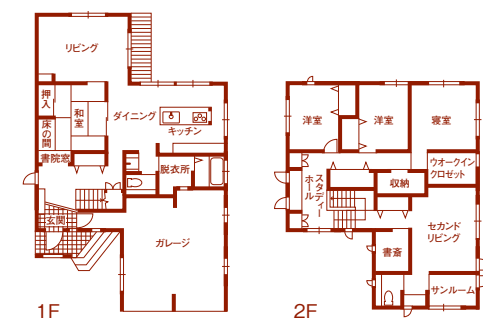


My Favorite

古民家調のインテリアに、大胆な色のキッチンが不思議となじむ。床に敷いた桜の無垢材が光を反射し、室内の雰囲気明るくしている。

- 1 玄関の正面には壁を丸く切り取った書院窓が、階段室上部からの明かりが桜材の床に注ぎ、ホール全体を明るく照らす。
- 2 スキップフロアの中2階から玄関方向を望む。空間を軽やかに見せるよう細身にデザインされた手すりは、建築会社のオリジナル。
- 3 現しの梁がダイナミックなリビング。奥まった位置にありながらダイニング・キッチンとも緩やかに繋がり、家族の存在を間近に感じながらくつろげる。
- 4 2階のセカンドリビングは塗り壁に。ご主人とお子様達も左官仕事に参加し、その記念として目立たない場所に手形を残したとか。
- 5 LDKの中心に造られた和室は、昔ながらの茶の間のように。ご両親との同居も考慮して、用途を限定しない部屋として造られた。



DATA
 家族構成：夫婦＋子ども2人
 竣工：2010年2月 構造：木造軸組工法
 延床面積：217.22㎡(65.57坪) 1F 117.44㎡(35.45坪) 2F 99.78㎡(30.12坪)

設計・施工：株式会社 トピアホーム
 南魚沼市川窪1148 ☎025-772-7031
<http://www.topia-h.com>
 ■企業についての詳細はP236をご覧ください。

黒色の杉板が和モダンの趣を演出する外観。落雪屋根の鋭角的な輪郭が、シャープな印象を強める。



K邸の設計コンセプトは、「色あせない和モダンの家」。黒色の杉板を巡らせたアプローチから玄関に入ると、正面には柔らかに室内の明かりを映す障子窓。さらに歩を進めれば、白壁と現しの黒い梁のコントラストが美しいLDKが現れます。

「完成した瞬間の価値がMAXで、経年と共にただ古くなっていくだけの住宅にはしたくありませんでした。その点、多くの日本家屋は、年月が経つほどに風格が増して、魅力的になります。我が家もそんな家になれたいなと思っています(ご主人)。

また、「長期優良住宅」に認定されるなど、優れた設備・機能も併せ持つK邸。デザイン的にも性能的にも、未永く暮らせる住まいになりました。

いつまでも色あせない
 モダンな日本家屋

ハウジングこまち 2010年6月発売号掲載